

# ひよし

## 愛顔つなぐえひめ国体



2～4ページ 日吉地区民泊協力会の思い出  
5ページ 秋の収穫まつり&ゆずまつり ほか  
6ページ 保育所だより ほか

表紙：バレーボール少年女子決勝戦  
(大分県 VS 大阪府)

## 日吉地区民泊 協力会の思い出

えひめ国体開催まで、あと百日というニュースをテレビで観てから開催までの時間というのはアツという間だったような気がします。えひめ国体では日吉地区でも四つの民泊協力会が選手団を「おもてなし」しました。

父野川民泊協力会は愛知県、下鍵山一民泊協力会は富山県、下鍵山二民泊協力会は岡山県、日向谷・上鍵山民泊協力会は大分県の選手団を、それぞれに趣向を凝らした歓迎会や送別会を行い、各県の選手団を感動させたり笑いの渦に巻き込んだりと、民泊の醍醐味を選手団も民泊協力会のみなさんも十二分に実感できた国体だったのではないのでしょうか。

共に過ごした数日という短い時間の中で、選手と受入家庭とが本当の家族のようにふれあい、涙を流しながらの感動的なお別れの光景を各民泊協力会で見ることができました。

日吉地区各民各協力会のみならず、協力会立ち上げからの長い間、本当にお疲れ様でした。

ここからは、各民泊協力会からの感想、思い出を掲載いたします。

## 父野川民泊協力会 会長 新谷 修さん

えひめ国体開催に、父野川区では民泊協力会を立ち上げました。長い準備期間中、調理班は何回も集会を開いたのち調理実習、美化班はプランターでの花の世話及び拠点施設周辺清掃や県道沿いの草刈り、また歓迎班による看板や歓迎旗作成、選手団来町一週間前には県道擁壁のコケに「歓迎

愛知県選手団」「ジャンプ愛知県No.1」と削り、迎えの準備は万全。四日午後七時、選手団到着時には拠点施設前からキャンドルを灯し、多くの父野川区民が出迎え、監督や選手団に感動していただきました。

夕食を終え歓迎会を開き、選手一人ひとりの紹介や民泊受入家庭の紹介をし、まだ緊張気味の選手たちも、輪の会による即興女神楽が始まると、大喜びでやっと緊張もほぐれた様子でした。

試合当日は、会場で愛知県応援団と精一杯の応援をしました。試合は一進一退

の攻防となり応援団も総立ちになりました。デュースの末、二―一で見事勝利するも、翌日の二回戦は〇―二で敗退となりました。最後の夜は芋炊きで送別会をし、感極まって涙する人もいました。

翌朝、多くの見送りの中、涙涙の別れとなりました。そして選手たちは帰りの際、県道の擁壁に「ありがとうございました」と書き添えてくれました。四泊五日の短い滞在ではありましたが、父野川区民を一つにしてくれた民泊、元氣と活力を与えてくれた選手たち、また、民泊立ち上げから解

散までご協力頂いた父野川区民の方々に心から感謝しています。

ありがとうございます、えひめ国体！



## 下鍵山一民泊協力会 会長 渡邊 清行さん

「民泊をありがとうございます」

下鍵山で二チームを受け入れると決めた当初は、一抹の不安もあった。それが今終わってみれば感動と大きな達成感に満ちている。何より、拠点施設として集会所の改修ができたこと、地域住民が一体となつて活動できたできたこと。民泊をして本当に良かったし、皆さんのご協力に心から感謝している。

「富山県」くじを引いた瞬間、エーどこや？すぐに思いつかないほど遠い存在だった。今は、何処よりも身近で気になる県になってしまった。なんといつても素直で明るい富山県選手団。国体では一勝もできなくて「勝ちたかった」と涙を見せた選手もいたが、それ以上のものをお互いに感じ得たのではないかと自負している。「勝負は時の運」また次に繋げれば良い。

彼女たちは今、今年度最後の大きな大会春高バレー



に向けて、日々練習に汗を流している。我々が魂を込めて手作りした看板や名札に旗、みきゃんで作った装飾の数々が、そんな彼女たちを励まし見守っているはずだ。それらは、国体期間中集会所に飾りつけていたものを、選手団が持ち帰りたいと言うことで、バスに積み込んだものだ。こんなに嬉しいことはなかった。今では富山第一高校バレー部の部室に飾られているという。

頑張れみんな！



## 日向谷・上鍵山民泊協力会 会長 石本 徹さん

「民泊が終わって一ヶ月が過ぎ、慌ただしかった生活からやっと普通の生活に戻りました。」

二〇一五年八月二十五日に民泊協力会を設立してから、国体まで二年二ヶ月、最初は「まだ二年向こうの事やけん、あわてる事ないぞよ」と言っていて、一年が過ぎたころから、調理班は長い調理実習に入り、美化班は試験的に花作りに入り、マヤとしながら過ごしていました。歓迎班、家庭班はモヤモヤが九月九日に受入チームが第一シードの大分県と決まってきたから、ワクワク・ドキドキで慌ただしく準備が進みました。そして、十月五日に大分県選手団を無事迎えることが出来ました。チーム大分は、前評判ではすごく厳しいチームとの印象で聞いていたので、宿泊家庭で食べるおやつは準備しても食べないかも？でも違いました。普通の子供でした。夕食が終わって帰る間に総務班長が「おやつは自分で食べられるだけ持つ

て行って」と言ったとたん、ジュース、果物、お菓子類に群がる姿を見てほっとしました。

監督さんも、とても気さくで「酒は飲みます。誰かお付き合いでいいもらえれば」の一言で四日連チャンで宿泊先の小山さん宅でコミュニケーションを取る事ができました。

最後に、当民泊は、日向谷区・上鍵山区の合同で民泊協力会を立ち上げ、当初は色々心配もしましたが両地区の地区住民と、調理班で助けていただいた上大野地区の皆様の深いご理解とご協力をいただき、二年二ヶ月の長い道のりを乗り切り、無事に民泊を達成することができました。

本当にありがとうございます。本当にありがとうございました。

### 追伸

長い間、日向谷・上鍵山民泊協力会の運営をサポートしていただいた国体推進課の皆さん、そして民泊担当職員の葛本さん、本当に最後までありがとうございます。本当にありがとうございました。



## 下鍵山二民泊協力会 会長 宮本芳春さん

愛媛での国体は六十四年ぶりに単独で開催されることになり、鬼北町ではバレーボール少年女子の会場。当初はあまり関心も薄く、高校生女子のバレーボール会場が鬼北町に決定した、このぐらいの認識しかありませんでした。しかし宿泊を民泊で対応、二十四チームが必要で各地区から募集、下鍵山地区においても当初は一チーム分かな？と思っていました、二チーム分とのことになり、当時の下鍵山区役員会で協議いたしました。下鍵山一（一組、二組、三組、六組、七組）と、下鍵山二（四組、五組、八組、九組、十組、十一組）にすることで決定、組長会での対応をお願いしました。

当初は何も分からず、先進地の資料と、班長会等での情報のみで何もない状態からの出発。当民泊協力会では、一年前に各組で協議いただき、組織の立ち上げには組長さんが中心となって、総務班・調理班・歓迎班・美化班・家庭班・

の各班長さんを決定、班長さんが自主的に活動していただくことといたしました。

初年度は主に拠点施設の準備を行い、植松集会所の改修と諸整備を行い、各方面のご協力とご尽力で施設利用が快適な施設になりました。

調理班は、調理の実習、講習会を1年目から実施していただきましたが、他の班については今年になっての活動。

歓迎班と家庭班については、九月九日の抽選（岡山チームに決定）において受入チームが決定してからの対応で、特に家庭班では、一年前に受入家庭の募集を組長さんにお願いが、チームの人数が確定しない、確保はしていません。うちには対応できず、決定後の依頼となり不安ばかりでした。

岡山チームが到着予定の十月五日には慌ただしく準備、調理班は、今までの成果を出して夕食作り、歓迎班は歓迎会の会場設営、出し物の準備、各役員さんを中心に出迎える準備がやっと整った夕刻にチームが到着、不安やら、

心配やら、そんな雰囲気の中、マイクロバスから監督や選手のみなさんが、出迎える私たちへ笑顔で丁寧な一礼で気分は和みました。

夕食の歓迎会では、歓迎班長のユーモアたっぷりの司会と、子供たちのダンス、歓迎班の愛媛の歌、岡山の歌両方をコーラス、不安は一気になくなり、和気あいあいの歓迎会となりました。また、民泊受入家庭紹介では、選手と家庭の顔合わせが和やかな会話で行われ、スムーズに各家庭に帰りました。

試合の応援では、大勢の応援希望者があり、我が子の試合を応援しているようだったとの意見ばかりでした。試合中は、どこの民泊協力会の方も受入チームを熱く応援、その姿には感動でした。

ベスト5になって、十月九日にチームが帰ることとなり、急ぎよ送別会の準備。又、ここでも歓迎班の活躍で盛り上がり、名残惜しく、笑いとお涙あり、受入家庭とのお別れのあいさつでは、涙涙ではつきり言葉も出ない方もあった。

送別会となりました。

選手からは、「ここに来て良かった、毎日美味しいご飯、優しい家庭で、是非機会があれば又、ここに帰ってきたい。」「お金を貯めて、又来たい。」などの言葉があり、当初は、民泊は不安で受けない方が良かったと後悔したけれども、「民泊をやった後悔しなかった。一生できない感動と経験が出来たこと、優しい選手に出会えたことは、民泊をして得た自分たちへの贈り物。」等の声を聞くことが出来たことに、今回の民泊が成功であったと感じました。

調理班は、選手の体調を気遣った食事を提供。「ああうまかった」の一言に感激した皆さん、応援に行って大声で応援していただき、選手から、「お母さん、お父さん」と呼ばれた受入家庭の皆さん、歓迎班の歓迎会、送別会の盛り上げに協力くださいました皆さん、美化班、家庭班の皆さん、応援に参加していただきました皆さん、そして裏方で支えていただきました地域の方々に、心よりお礼申し上げます。有難うございました。そして感動の民泊お疲れ様でした。



# 今年も豊作!

十一月三日(金)  
文化の日に、日吉夢産地で秋の大収穫まつり&ゆずまつりが開催されました。

ステージでは、今年も有志団体による芸能発表会が行われ、また、ゲストイベント、新屋まりさんによるライブ on ステージでは、さわやかな歌声に観客は魅了され、愛媛プロレスによる路上プロレスバトルでは、ステージいっぱい使った迫力ある試合や、場外でのムチを使った試合展開に大いに盛り上がったステージとなりました。



# 神秘の仁淀ブルー

第二回日吉歩こう会を十月二十日(金)に実施しました。今回は、「仁淀ブルー」で有名な仁淀川町といの町でのウォーキング!ただ、当日はあいにくの空模様。前日の天気予報では晴マークが出ていたのに大外れで、傘が必要な天気となりました。始めに仁淀ブルー一番の見所「にこ淵」を目指し片道1km程度のウォーキング。目的地にはチェーンを使って下りる箇所があり、足元がぬかるんで危険なため参加者の半分くらいしか「にこ淵」には下りませんでした。

その後、安居・中津の両渓谷でも遊歩道等を景色を楽しみながらのウォーキング。連



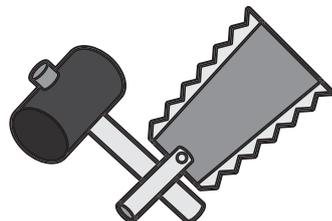
日の雨で川の水が増水しており、川を渡ることが出来ない所もあり計画していた所を全部見ることができませんでした。ただ、滝に関しては増水の影響で迫力のある景色を見ることができ、マイナスイオンを体一杯に浴びることができました。

天気の悪い中の歩こう会でしたが、参加者からは「良かったよ」という声を聞くことができ、主催者として大変嬉しく、微妙な天気でしたが実施して良かったと思えました。次回は、三月中旬から下旬に開催予定です。これまで参加したことのない方も大勢参加していただけるような企画にしたいと考えております。

# ついに完成!

五月十八日に開講しました日吉いきいき講座「日吉中学校と交流教室」が十月十二日に閉講となりました。日吉中学校生徒と地域住民との交流の一環として行っているこの講座、今回も講師に宇和島市の木村さんを招いての木工を行いました。「マホガニー」という木材を使ってブックスタンド等を製作しました。始めは、「難しそうやな。」と思っていた木工も、回を重ねると次第に作品の形も見えてきて、終わる頃には楽しく作業をすることができ、参加したみなさん全員が立派な作品を完成させました。

日吉中学校の先生・生徒のみなさん、そして参加していただいた地域のみなさん。本当にありがとうございました。



# 保育園だより

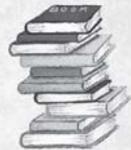
去る十一月一日、勝山荘のお芋ほりに、みどり保育園青・黄組さんが張り切って行ってきました。

最初は、「出てこん」掘れん〜と言っていたのですが、手伝ってもらったり「よごれてもだいじょうぶ！」と励まされたりするうちに大胆に掘り始め、大きなお芋やたくさんくつついたお芋を掘り上げ大喜びでした!! 勝山荘のみなさんありがとうございました。園長先生より



## 新着図書案内

日吉公民館図書室に新しい本が加わりました。



湖底の城  
宮城谷昌光



ホワイトラビット  
伊坂幸太郎



いのち愛しむ、  
人生キッチン  
桧山タミ



永久レシピ 101  
小林カツ代



はじめての  
野菜づくり  
池田書店

### そのほかの書籍

てくてく歩き 四国

日本の絶景&秘境100

愛媛県の山

応仁の乱

サーカスの夜に

死ぬまでに行きたい  
世界の絶景 日本編

死ぬまでに行きたい  
世界の絶景 新日本編

園芸店で買った花をすぐに  
枯らさない知恵とコツ

白崎茶会のあたらしいおやつ

さよならの力



## 日吉地区のための「日吉夢基金」

日吉地区の地域振興基金にご寄付をお願いします。

ご寄付の御礼

松崎ちづる様(父野川下)からご寄付をいただきました。ありがとうございました。今後の事業に活用させていただきます。

## 日吉の人口

10月末人口

1,302人

(△10人)

増減は前同比

男 618人

女 671人

671世帯

## 編集後記

今年も早いもので、残り一ヶ月ちよつととなりました。年の初めに立てた目標は達成できましたか？  
私は無理っぽいです。

㊦

発行者

日吉公民館

発行日

平成29年11月25日

住所

鬼北町大字下鍵山四六三

電話

0895-44-2211

fax

0895-44-2870